

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第 31 号



2022年10月23日発行

発行責任者 芳川玲子

〒259-1292

平塚市北金目 4-1-1

東海大学文化社会学部心理・社会学科
「芳川玲子」研究室

巻頭言

コロナと共生の学校生活で今必要な援助とは

現在小学校の校長職を担っている。長い教員経験の中で、今回のコロナ禍での教育は今までの常識や経験を覆す大事件だった。国や市町村から出される感染対策のガイドラインに沿って教育活動を進めるため、子どもたちや保護者に学校の提案に従ってもらった。そしてガイドラインが変わるたびにそれは繰り返された。「世界中を巻き込んだ大災害なのだから仕方がない」を言い訳に、大人都合で様々な制約を作り学校運営を進めた。その時、子どもたちの気持ちはそちのけであったことは認めざるを得ない。

今年の春に行った運動会のこと。「野外での体育の学習ではマスクを外す」というガイドラインが出ていたこともあり、「外でなら大丈夫。マスクはずしましょう」と、丁寧に説明し、児童が安心できるようにまず教師に率先してマスクを外してもらった。低学年は教師の声かけがあるとすぐに外すことができた。中学年も「いいのかな」という表情を残しつつほとんどの児童が外したが、高学年は何度声をかけても外せない。なんとかマスクを外せても手やハンカチで顔を隠している子が数多く見られた。

学校生活が「コロナと共生」に舵を切り始めた時、見えてきたことは感染対策に大人たちが必死になっていたこの2年半の生活が及ぼした子どもへの影響の大きさだった。手がボロボロになっているのに心配で手洗いをする子、耐性が弱く我慢ができない、情緒が不安定などの症状を見せる子、顔を見られたくない、恥ずかしいと思う子、集団で過ごすことや学校生活を送ることに強い不安を感じる子、などはコロナ前にくらべ格段に増えている印象がある。このままではいけない、なんとかしなければと切迫した気持ちになった。

今学校に必要な1次的援助サービスは「マスクを外すことに罪悪感をもたせない」だと思った。まず教室の中で「しゃべらない」約束のもと、ごく短時間マスクを外す練習を始めた。そして互いの顔を自然に見られる時間を作った。2次的援助サービスとしては不登校児童の増加の予防である。集団に入ることや学校で生活することに不安を感じる子が増えている現状の中、完全に学級や学校から気持ちが離れてしまわないために、別室でオンライン授業に参加するなど、「これなら大丈夫かも」と思えるような気持ちのハードルを下げる工夫を行った。また担任が個別に対応すると疲弊してしまう。別室対応は学年やブロック等、チームで支援するシステムを作った。まだまだ足りない。一度喪失したものを取り戻すことはとても困難だ。子どもたちに今こそ良質な援助サービスが必要である。

(神奈川支部役員 川村 智子)

2022 年度神奈川支部総会報告

1. 日時 2022年6月19日(日) 14:00~14:30
2. 場所 ユニコムプラザさがみはら (Zoomによる同時配信実施)
3. 総会の議事と審議結果
 - (1) 開会
 - (2) 支部長挨拶 芳川 玲子
 - (3) 議事
 - 第1号議案 2021年度事業報告並びに決算・監査報告・・・承認
 - 第2号議案 2022年度事業計画案並びに予算案について・・・承認
 - その他
 - ・『神奈川支部の20周年記念行事について』



★神奈川支部の活動等については、HPでご確認・ご活用ください。

<https://sp-kanagawa.net/>

★神奈川支部へのご質問・ご連絡は、メールにてお問い合わせください。

メールアドレス : info@sp-kanagawa.net

2022 年度 神奈川支部研修会

- ▶第59回研修会 2022年6月19日(日) ユニコムプラザさがみはら (Zoom同時配信)

更新表 B1 に該当

講演: 「インクルーシブな学校組織文化の三層構造」

講師: 中田 正敏 先生 (横浜創英大学看護学部非常勤講師)

- ▶第60回研修会 2022年10月23日(日) ユニコムプラザさがみはら (Zoom同時配信)

更新表 A1 に該当

シンポジウム: 「チームによる生徒指導—横浜市における体制と実践」

企画者・司会: 三藤 敏樹 先生 (横浜市立菅田中学校)

シンポジスト: 末岡 洋一 先生 (横浜市教育委員会)

シンポジスト: 関根 了平 先生 (横浜市立菅田中学校・特別支援教育コーディネーター)

シンポジスト: 高場 恭子 先生 (横浜市スクールソーシャルワーカー)

指定討論者: 内山 慶子 先生 (神奈川県立総合教育センター)

- ▶第61回研修会 2023年2月19日(日) ウィリング横浜

講演: 未定

講師: 未定

第59回研修会報告

日時 2022年6月19日(日)
場所 ユニコムプラザさがみはら
(Zoomによる同時配信実施)

インクルーシブな組織文化の三層構造

講師：横浜創英大学看護学部非常勤講師 中田正敏先生



今回の研修会では、横浜創英大学看護学部非常勤講師 中田正敏先生から、学校の組織文化を3つに分けて考える、インクルーシブな組織文化の三層構造についてお話をいただきました。神奈川県立田奈高等学校での校長としての実践事例等から、教職員が生徒に歩み寄り話をきく姿勢を示すことで学校文化は変化する、学校組織全体で「対話の文化」を構築していくことの重要性など、多くの気づきを得られた時間となりました。

1. インクルーシブな組織文化(学校の「雰囲気」)について

“生徒の声をきくこと優先させる”、“無条件に生徒の話をきく”ことで、教職員の生徒を見る眼差しが変化するとともに、職員室の雰囲気が変わってくる。また、生徒の問題解決を図るために、関係職員や機関等の資源を活用していこうとする動きも見られるようになる。一度染みついた自分の考えや習慣を転換することは難しいが、様々な事案を通して自らの思考の習慣について気づくことは可能であり、それが組織文化が変化していく契機となる。

2. 「指導の文化」と「対話の文化」について

「指導の文化」論には、「教職員の責任を拡張する理論」と「教職員の責任を解除する理論」がある。前者は、指導は教職員と生徒の信頼関係を基盤に可能になるという前提にもとづき、教科指導以外にも日常生活の各側面へと指導の対象も程度も拡張することである。後者は、高等学校では『適格者主義』の原則の下、指導に従わない『適格性を欠く』生徒に対し、停学・退学などの懲戒等を行う権限を有し、教職員は生徒への指導責任を正当に解除可能であることである。*1

これは1970年代から1990年代を対象とした研究の成果であるが、現在においてもこの『適格者主義』の考え方も含めてあまり状況は変わっていない。

学校組織文化に「対話の文化」を組み込むことが重要である。従来の指導者(教職員)一被指導者(生徒)関係の枠組みから離脱し、共に困難を対象化し、解決方法を模索するプロセスが「対話の文化」論の核になる。

「対話の文化」を媒介として、生徒との対話が不可欠である「支援の文化」を実践していき、さらに「指導の文化」に戻ることを繰り返すと「対話の文化」の厚みが増すのである。

3. インクルーシブな組織文化について

学校は、新しいものを持ち込む(新しいものを取り入れようとする)時、それがどんなに優れたものであっても混乱する組織である。また、暗黙のルールに支配されているため、物事を一定の既存の枠組みでしか捉えない傾向もある。多職種の人が様々な視点で考え、対話の中に生徒が参加する「協働の文化」を学校に取り入れていくことが大切である。

組織文化には3つのレベル（三層構造）があり、それらは学習され、変化していく。

- ・第一層：「人工の産物（文化的人工物）」
（学校目標、校訓、生徒指導内規など）
- ・第二層：「信奉された信条と価値観」
（教職員のいろいろな意見、暗黙のルールなど）
- ・第三層：「基本的な深いところに保たれている前提認識」
（「常識的なもの」など） * 2

学校目標（第一層）に何を位置付けるか。教職員の優れた実践を文書化し、学校目標に位置付けることで流れが変わり、学校の組織文化が変化していく可能性が生まれる。これまでの“常識”や“思い込み”に気づき、学校のこれまでの組織文化を見直すことが起点となり、インクルーシブな組織文化の形成に繋がるのである。

* 1 井上慧真(2021) 「高校中退と『指導の文化』」 (ソシオロジ 66-2)

* 2 エドガー・H・シャイン著「組織文化とリーダーシップ」白桃書房 2012年
尚、() 内は講師による例示

本の紹介



小学校・中学校・高等学校・特別支援学校 教育相談担当・特別支援教育コーディネーター必携
「この一冊でわかる『教育相談』—学校心理学と障害福祉の基礎—

大山 卓 著

ジアース教育新社（2021年4月発行）

教育相談担当として身に付けておきたいカウンセリングの基礎から子どもの精神疾患、発達障害、心理検査の概要、障害福祉制度等について平易な言葉で解説されています。また、自殺やリストカット、児童虐待やDV、外国人児童生徒や貧困問題、LGBT・SOGIへの支援など、最近話題になっている教育に関するテーマを幅広く取り上げられており、学校での教育相談活動の一助になる一冊としてお勧めいたします。

お知らせ

◆2022年度学校心理士資格“更新”申請受付開始

・申請期間 9月1日(木)～10月28日(金)※必着

・資格更新対象者(以下に記す年度の資格取得者及び資格更新期間延長者)

1997年度、2002年度、2007年度、2012年度、2017年度

※詳細は、学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会 HP でご確認ください。

<http://www.gakkoushinrishi.jp/>



[編集後記]今年度の神奈川支部の活動も、コロナ禍による影響から様々な制約を受けており、支部会員の皆様にはご不便をおかけしていることをお詫び申し上げます。今後とも、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。 ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp (編集部)